

導水路の必要性 県に再検討要請

市民団体が提出

長良川の環境改善を目指す市民団体でつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は10日、徳山ダム（揖斐郡揖斐川町）の水を揖斐川から木曾川へ流す導水路事業について岐阜県の立場で事業の必要性を再検討することなど5項目からなる「長良川の環境改善を求める要請書」を県に提出した。

粕谷志郎共同代表ら10人が県庁を訪れ、県の真鍋将一河川課長に古田肇知事宛ての要請書を手渡した。

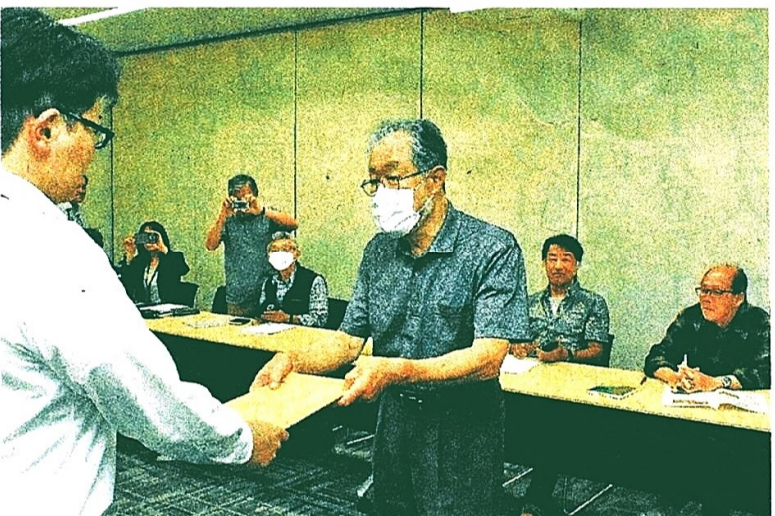
導水路事業を巡っては国土交通省が今年3月、総事業費が従来の想定約2・5倍に当たる2270億円に膨らむとの見通しを明らかにした。実行委メンバーは工事内容や工法が変更された影響が大きいと指摘し

て詳細の説明を求めたが、真鍋課長は「物価（の影響）だけではないとは承知している」と述べるにとどめた。

岐阜市の長良川鵜飼の観覧船乗り場に期間限定で開業した管理釣り場からニジマスが流出した問題については県の姿勢をただし、真鍋課長は「増水時の危機管理対策など再発防止策を取りまとめる」と回答した。

要請では他に、美濃市横越地区で進められている遊水地整備を「強行」しないこと、長良川河口堰せきの開門調査実施に向けた検討を行うことなどを盛り込んだ。

（古家政徳）



要請書を真鍋将一課長に手渡す
粕谷志郎共同代表（左）と県庁